

推奨される食餌について

A. 殻付き餌を主食とする場合

(1) 普通な配合の殻付き餌を主食とする

- ムキエサやアワ玉は栄養が低く、バイ菌が繁殖しやすいので使用しないでください。
着色料が混ざっているものは使用を避けてください。
- アワ、ヒエ、キビ、カナリーシード以外の種は原則不要です。
- 特にヒマワリ、アサノミ、サフラワー、エゴマなどの脂肪種子は使わないでください。
※カナリーシードを単独で添加したり、除いたりしないでください。アワ穂は追加してもOKです。
- 好きな種類の種だけ偏食しないよう、混合殻付き餌は少量入れ全部食べ切ったら新しい種を入れます。
- 殻付き餌は乾燥した冷暗所で保管します。袋ごとよく振って、浮いた種と沈んだごみは捨ててください。

(2) 副食としてビタミン源を必ず与える

- ① 新鮮な野菜をよく洗って与えます。乾燥したものは使用しないでください。
 - ビタミンAが多い野菜を選びましょう。ビタミンCは健康な鳥は体の中で作れるので考慮なくて大丈夫です。
 - 小松菜、チンゲンサイ、ブロッコリーなどのアブラナ科植物はビタミンAが豊富ですが甲状腺を悪くする物質が多く含まれます。アブラナ科植物を避けてキク科(サラダ菜)などの野菜を与えましょう。
 - アブラナ科植物を与える際は、甲状腺を守るヨードを含むビタミン剤を併用しましょう。
 - 果物は小型鳥ではあまりお勧めしていません。
- ② 野菜だけでは摂取しきれないビタミンが多いため、必ずビタミン剤を併用してください。
 - ビタミン剤はビタミン量が明記してある品質の良いものを選びましょう。当院ではネクトンSを推奨しています。

(3) 副食としてミネラル源を必ず与える

- ① Ca源として、ボレー粉を与えます。
 - 計量して入れるなど食べている量を把握します。食べていない場合、イカの甲かサプリメント(ネクトンMS Aなど)を与えてください。
 - ボレー粉は自家製が推奨(カキの殻を煮沸、乾燥、冷凍保存)されます。市販の物はよく洗ってから使用しましょう。
- ② 塩分も与える必要がありますが、入れっぱなしにしないようにしましょう。
 - ミネラルブロックあるいは塩土を食べ過ぎないように注意しながら、週に1回少量与えます。
 - いまのところ、病院で推奨できるレベルの安全性が確認された商品はありません。

(4) その他のサプリメント

- 換羽期に調子を崩しやすい鳥は、換羽期用のサプリメント(ネクトンBIOなど)を与えます。
- 健康な鳥に対して、乳酸菌や炭などの整腸剤の常時使用はお勧めしていません。

B. ペレットを主食とする場合

(1) 食餌の7割ぐらいをペレットにする

- 質の良いペレットを選びましょう(HBD、Roudybush、Kaytee、Zupreem、Lafeberなど)。
- 何種類かのペレットを食べられるようにしておくか併用してください。
- ペレットは乾燥した冷暗所で保管します。開封したら早めに使い切りましょう。
- ペレットへの切り替えはゆっくりと、無理にペレットに変えようとして頑張り過ぎないようにしましょう。
- 胃の弱い鳥は100%ペレットにすることがお勧めです。
- 繁殖期・成長期の鳥は専用のペレットにします。

(2) 副食として野菜や穀付き餌を3割以下の量で与える

- 本来100%ペレットでOKですが、食べる楽しみを増やし新鮮なものを与えるためです。
- ビタミン剤やミネラル剤は追加で与えないでください。すでにペレットに含まれているので過剰給与になります。

C. 与えてはいけないもの

(1) ヒトの食べるもの

- たとえ欲しがっても、鳥に安全と分かっているもの以外は与えないでください。
- 特に、ゴハン、パン、お菓子などの過熱炭水化物や甘い物はカンジダ症の原因となります。

(2) 安全性の低い商品

- 日本には、鳥の餌の安全性を保障する公的機関、法律、安全基準が存在しません。そのため、安全性が保障できない飼料やサプリメントが数多く出回っています。
- 原材料、成分表示、品質保持期限などの記載を怠っている商品は避けましょう。

(3) 着色料

- 食物由来の着色料であることが明記されていない商品は使用しないようにしましょう。安全性が高い着色料でも、便の色が分かりづらくなります。

(4) 毒性のある食べ物

- アボカドはとくに鳥には毒性の強い植物です。ネギ、モロヘイヤ、チョコレート、観葉植物も他の生き物で毒性が報告されています。



ノビ動物病院

〒069-0813 北海道江別市野幌町 8-18

TEL : 011-375-6331